

ファイナルレポート

(日本語抄訳版)



2022年11月9日

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

wire, Tube, GIFA, METEC Southeast Asia がバンコクで開催

ワイヤー、ケーブル、チューブとパイプの見本市「wire & Tube Southeast Asia」は2022年10月5-7日、バンコクのBITECにて鋳造・冶金の見本市「GIFA & METEC Southeast Asia」と同時開催され、業界の最新技術が発表されました。

バンコクで開催される見本市は地域における情報・取引プラットフォームとしての専門性が高まっており、32か国から合計244社の出展者がバンコクに集結し、主要技術における革新力をアピールしました。出展者の85%が国外企業で、鉄鋼、非鉄セクターのほかワイヤー、ケーブル、パイプ、チューブ業界から機械装置、製品、ソリューションが展示されました。

また60か国から約6,000名が、おもにオーストラリア、バングラデシュ、インド、インドネシア、マレーシア、パキスタン、ベトナム、シンガポールから来場しました。来場者の満足度は90%で、需要と供給の両方向から市場のニーズを捉えていることが明らかになりました。

<wire & Tube Southeast Asia>

1997年から、ワイヤー・ケーブル業界の主要企業がアジアで2年に一度開催されるwire & Tube SEAに出展しています。ここではワイヤーの製造や加工、仕上げのほか、付属品、測定、制御、テスト技術、さらに新開発の特殊ワイヤが展示されます。Tube SEAではチューブやパイプの製造、加工、仕上げのための機械や技術がカバーされています。

wire & Tube SEAの来場者は、ワイヤー、ケーブル、チューブ、パイプ、自動車、石油、ガス、建設、エネルギー、電気業界のメーカー、川上のサプライヤー、バイヤーです。

<初開催となった GIFA & METEC Southeast Asia 2022>

今回、鋳造・冶金分野の出展者がGIFA & METEC Southeast Asiaにおいて初めて最新技術を披露し、製造、金属加工、仕上げという産業のバリューチェーンが完成しました。カバーする産業見本市をアジアで拡大した背景には、東南アジアのインフラ整備に伴う機械・設備、製品への需要の高まりがあります。

建設分野におけるプロジェクトの活況、鉄鋼製品への需要の高まり、物流・輸送サービスに寄せられるニーズの伸び—これらの観点から、テーマ的に連動する見本市を2つから4つに拡張することはすべての関係者にとって有益であることが証明されました。

この4つの見本市は、次回は2023年9月20日から22日まで、再びバンコクで開催されます。

Wire, Tube, GIFA & METEC Southeast Asia 2022 のファイナルレポート（オリジナル）は[こちら](#)からご覧ください。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン 担当：富田

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1

ニューオータニ ガーデンコート 7F

TEL: 03-5210-9951 Mail: mdj@messe-dus.co.jp